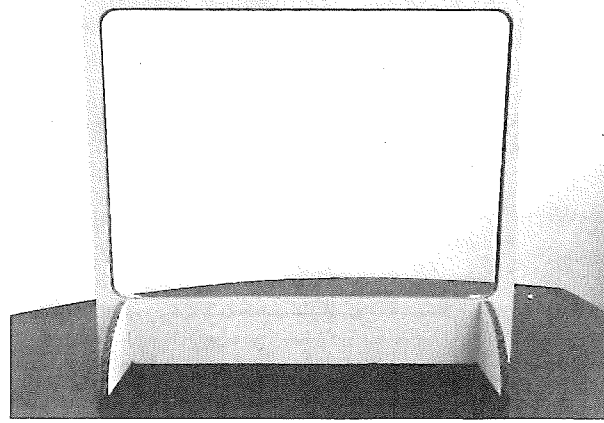


### アサヒパクテム

# 段ボール製で高い透過性

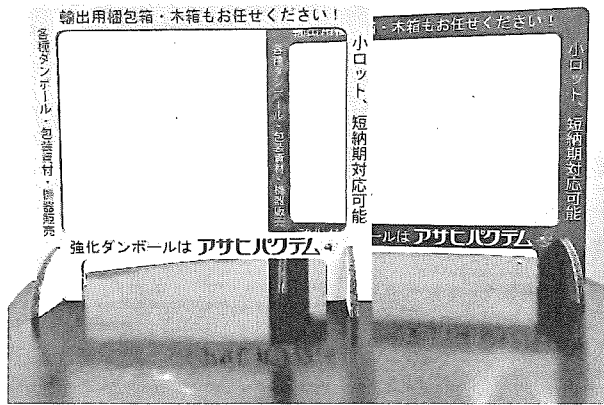
## ストレスフリーのコロナ対策品

段ボール製品ほか各種包装資材を製造販売するアサヒパクテム(滋賀県甲賀市、☎0748・67・1511)は、新型コロナウイルス感染症対策商品の開発を進めている。特に、完全自社開発の



飛沫防止デスクシールド「バクテムI」

飛沫防止デスクシールド(パネル)「バクテムI」は高い透過性や機能性、コスト面で優れた教育機関などに採用が広がっている。同商品は、段ボール製のフレームと脚、PETフィルムから構成



オリジナル印刷対応の「バクテムII」

される。段ボールの加工性を生かし、強度限界まで窓部分を確保。圧迫感を排除して、顔を見ながらコミュニケーションを取れるよう最大限配慮した。また、下部にミシン目を設けて容易に切り取れる仕様とし、用途や使用環境に合わせた3形状に変更できるのも大きな特長だ。規格サイズ(完成時)は、幅800×奥行き250×高さ700mmで、3枚1セット5850円(税・送料別)。

同社初のオリジナル商品だが、お客さまに喜んでほしい、社会貢献にもつながる「近江商人三方よし」の精神が形にできたという。寸法設計には、スーパーコンピュータ「富士岳」で演算された飛沫拡散防止に必要な高さデータを参照。段ボール製なので軽く、取り回しや廃棄性にも優れている。

今夏には、岐阜県瑞浪市にある麗澤瑞浪中学・高等学校の食堂(600人収容可能)へ330枚が導入された。さまざまな材質、種類の飛沫防止パネルを試す中で、視認性が良く開放的な点など、前述の特長が評価されて採用に至ったという。このほか、下部に受け渡し口を開けて図書室の受付に設置したり、生徒用のパソコン同士の間に特注の「バクテムI」スペシャ

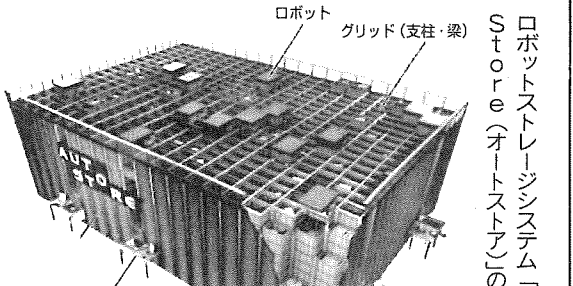
ル「W」を設置したり、Withコロナのアイテムとして活用している。同社はこのほど、オリジナル印刷に対応する「バクテムII」も開発した。バクテムIと同

### さらなる作業効率化を実現

#### Autostore EC市場の物流現場に向け

ノルウェーのロボットメーカーAutostoreは、業であるAutostore社は、高い空間利用率が特徴の自動倉庫型ピッキングシステム「Autostore」(オートストア)を展開している。生産性と効率を高めるべく、ソフトウェア「Router」(ラウター)を10月27日にリリース。主に成長著しいeコマース市場の物流現場において、作業者の待ち時間削減などに貢献す

ほぼ同じ仕様だが、上と左右のフレーム部分を30mmから60mmに広げて印刷スペースを確保。今後、企業をPRする展示会やイベントでの利用が期待される。



### 光製袋工業所

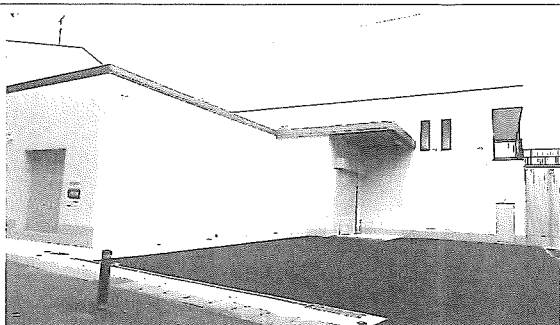
## 工場増築し倉庫拡充

### 作業性向上し新分野に挑む

光製袋工業所(京都府伏見区、☎075・621・1016)は、受注量増加、納期遵守、生産性向上などに対応するため本社工場を増築した。製品やフィルム原反保管の倉庫も増床しており、作業者のための休憩室といった福利厚生面の拡充を図った。付加価値の高い

加工製品の提供で信頼も厚く、工場増築で業界における存在感を一層、鮮明にするものと注目されている。同社は、製袋加工専門業コンパニーターとして群を抜いた加工実績を誇り、1964年(昭和39年)の創業から製袋加工に一貫して従事してきた。取引先には

国内で大手とされる印刷コンパニーターが名を連ね、厳しい品質管理要求に対応している。今年9月、本社工場に隣接する725平方メートルの土地を取得し倉庫増築部分2階建て、1階は倉庫、2階は休憩室、更衣室などを設置。敷地面積の増



増築した本社工場の外観

大で大型輸送トラックなどの荷受け作業が容易となり、加工製品やフィルム原反、資材などの保管効率も向上している。2007年6月、特殊製袋メーカーとして不動の評価を得る同社。特に、チャック袋の製袋加工では知名度も高い。本社工場の他に「山梨工場」を整備し、東日本エリアへの供給も難なく行っている。

どの保管効率も向上している。2007年6月、特殊製袋メーカーとして不動の評価を得る同社。特に、チャック袋の製袋加工では知名度も高い。本社工場の他に「山梨工場」を整備し、東日本エリアへの供給も難なく行っている。

には軟包装衛生協議会の認定工場。クラス1万のクリーンルーム、FSSC22000認証など相次ぎ取得。来年3月には「山梨工場」でもFSSC22000認証の取得も予定。万全の品質管理対策で企業の信頼性を高めている。

同社では、今回の増築は新型コロナウイルス感染症拡大が話題となる以前から計画されていたが、コロナ禍の中、半年以上の増築工事の遅れが生じた。増

築した作業場もいまだ稼働には至っていないという。「そうした中にあるが、今後は本社工場増築で作業場の拡大が図れるので場内をエリア分けし、注目される紙ベースの新素材に対応し紙製品専用機を設置し、紙製品加工にも積極的にチャレンジしていきたい」と意欲を見せている。

各種印刷機材の販売を展開している設楽印刷機材(前橋市、☎27・261・700)は創業以来培ってきた国内外の独自ネットワークを活用し、4月にヘルス事業部を新設した。健康・環境面から顧客の事業活動支援を目的に、各種商品の取り扱いを始めた。



有田氏は2時間以上立ったまま約50人を前に熱弁した。

10月29日に都内で開かれた日本包装機械工業会(日包工、大森利夫会長)主催の環境関連セミナー「循環型社会実現を

目指す包装の新潮流」登壇した有田俊雄氏(有田技術士事務所所長)は2時間以上立ったまま、約50人を前に熱弁をふるった。質疑応答の後、セミナーを企画した技術委員会の伊早坂副委員長から包装業界の後進に向け

## 業界の後進に熱いエール

### 日包工セミナーで有田氏が講演

半世紀以上にわたる包装業界の発展に多大な貢献を果たしてきた有田氏は「私には人生の持ち時間がいくらかもないので、いま一番欲しいのは20年生存切符。けれども、それは難しい。ならば20年生存切符の代わりに、20年後の世界を皆さんに渡したい」と切り出した。

「20年後はこうなっていたらいいよね、とこうのことをみんなが話して合意し、思統一できれば、次の時代を変えられる」とし、そのうえで注意しなければならぬのは、ごみ処理「焼却のような日本の常識は世界の非常識だということ、そして延長線上でものを考えないことだ」という。

「必ず2040年」という社会になるといって互いにイメージする。そこで包装物流はどうしたいか、どうありたいかという仕様書を先に書く。そしてその現状との

間でも問題かを探ることが大事。延長線上でものを考えるフォアキャストインクではなく、先に目標を決めてそこに行くステップを考えるバックキャストインクをしていただきたい」と要望した。

最後に「包装技術の前に、これからの世の中は自分たちで作っていかんとすう明確な意思を持っていただきたい。皆さんどう頑張ってください」と締めくくった。

### ロボのティーチング工数低減ソフト提供

#### デンソーウェーブ デパレ等の目標位置を自動計算

デンソーウェーブ(愛知県阿久比町)は、10月にパレタイシング・デパレタイシングの目標位置を自動計算できるアプリケーション「WINCAPS III」をソフトウェア「WINCAPS Plus」のパレタイシングビルダーの提供を開始した。パレタイシングのプログラミング・ティーチングの工数低減に役立つ。

同ソフトは、パレットや積載物の形状・寸法を入力することで自動計算を行い、可動範囲を考慮したパレタイシングなどの目標位置

を表示する。算出した位置をロボットコントローラや同社のロボットプログラミングソフト「WINCAPS III」などに送ることでティーチングなしにロボットが動かせる。パレタイシングするケースサイズが複数あったり、パターンが異なる場合などでも広く対応が可能。また、積載物の重量を入力することで総重量なども算出できる。パレタイシング・デパレタイシング工程をはじめ、出荷現場の自動化に大きく寄与するものと見られる。